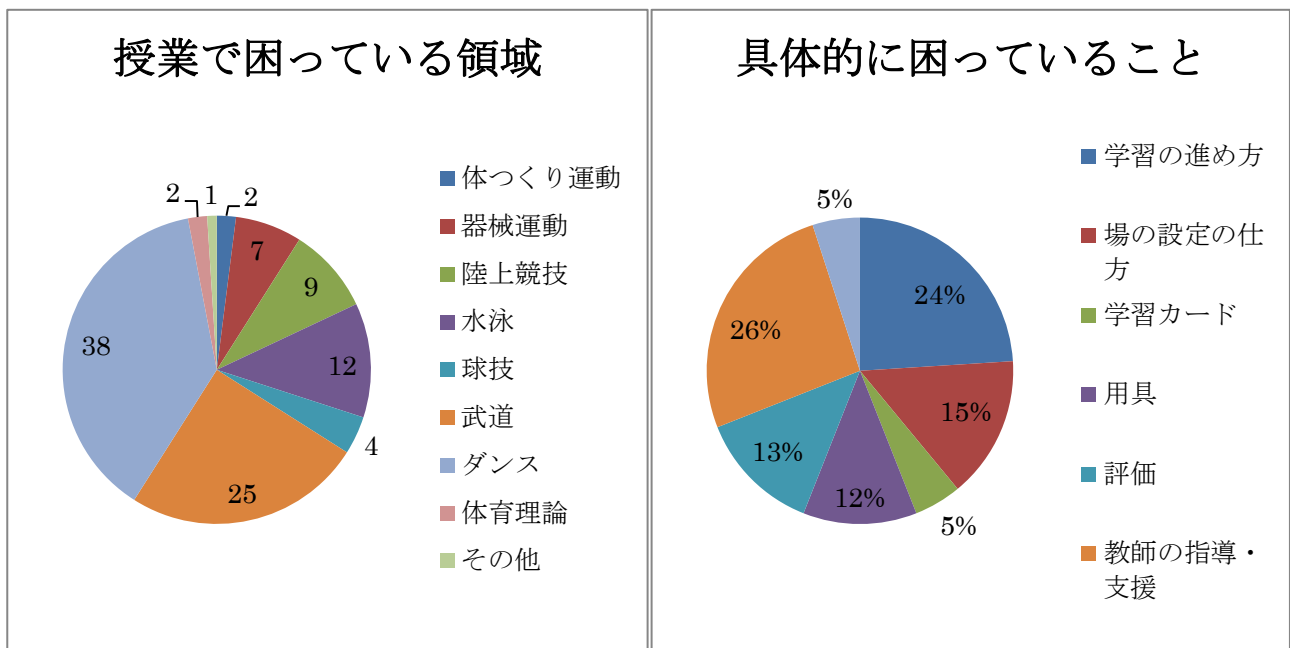


# 中学校 C ダンス領域と体育的行事の関係性について

市原 剛志 (長生)      米本 和樹 (夷隅)      笹子 竜侍 (安房)  
森田 和也 (君津)      渡辺 俊雄 (木更津・袖ヶ浦)      小森 一生 (市原)

## 1 はじめに

平成25年度に実施したアンケートにおいて、ダンス指導について「困っている」「指導・支援・学習の進め方が難しい」という意見が多く、中学校Cグループでは平成26年度はダンスの授業実践を通して学習形態についての研究を行った。また、平成27年度はダンス領域における学習資料についての研究を行った。そして、今年度は『自ら進んで運動に親しむ児童生徒を育成する体育学習の在り方』のテーマのもと、各学校がダンスの指導をどのように行っているのかを体育的行事の指導計画や実施内容と関連づけてのアンケート調査を行い、そのデータを基に、より良いダンスの指導・支援・学習の進め方を考察したい。



## アンケート調査

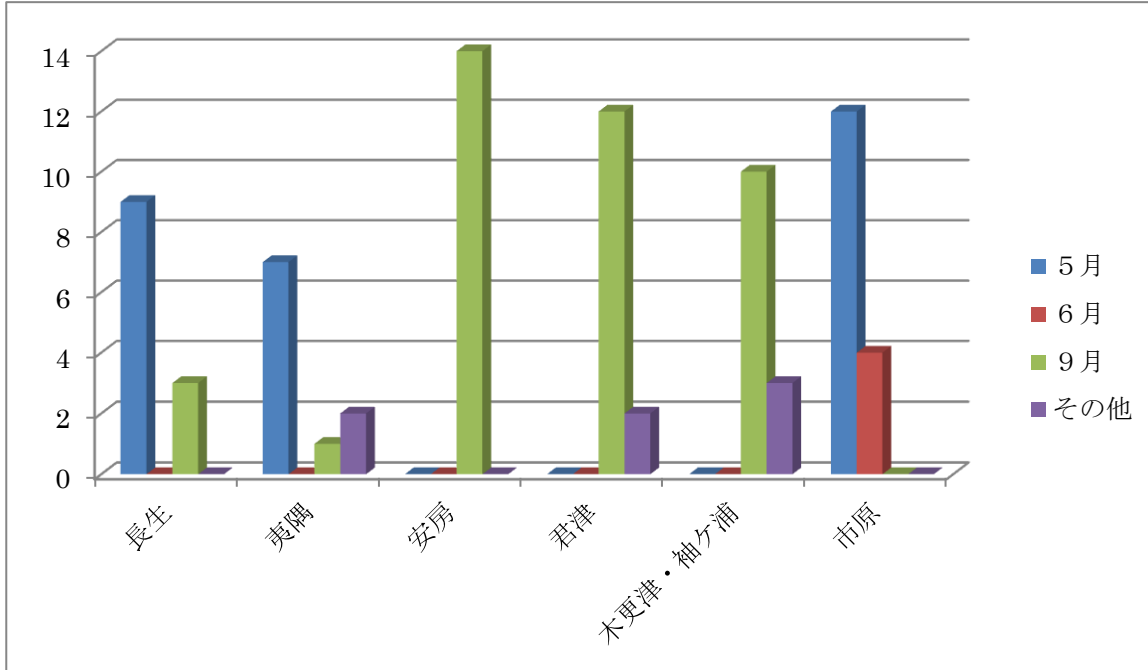
- (1) 対象 長生 夷隅 安房 君津 木更津・袖ヶ浦 市原地区の中学校体育主任
- (2) 実施期間 平成28年7月～10月
- (3) 内容 ①体育的行事での実行委員会等の設置校数  
②体育的行事の実施時期  
③体育的行事でのダンスの実施校数  
④体育的行事でダンスを行う際に必要な授業のとの関連や指導の工夫点

## 2 アンケート結果

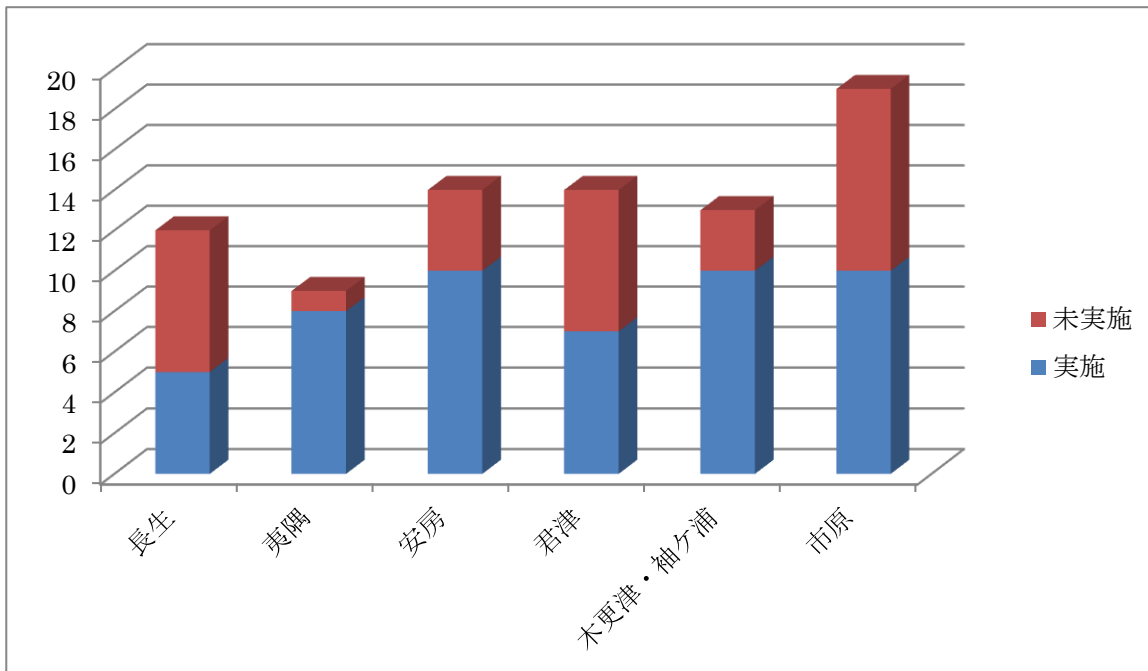
### (1) 体育的行事での実行委員等の設置校数

- ・ 75校中74校が生徒主体で運営する実行委員会等を設置している。

### (2) 体育的行事の実施時期



### (3) 体育的行事でのダンスの実施校数



(4) 体育的行事でダンスを行う際に必要な授業のとの関連や指導の工夫点

① 授業での取り扱いについて

- ア 練習時間の短縮のために授業の中で練習し発表している。
- イ 授業で数時間行っている。
- ウ 授業とは別の時間に練習を行っている。
- エ 清掃時間の裏でダンスタイムをつくり通年で踊っている。
- オ 授業→ダンス発表会→文化祭→次年度の体育的行事での発表のサイクルで行っている
- カ 授業で細部まで踊れるようにしており、隊形移動まで指導している。
- キ 5月の早い時期に授業を行い間に合せている。

② 指導形態の工夫について

- ア 3年生ダンスリーダーが1・2年生ダンスリーダーに教えている。
- イ 学年を超えて上級生が下級生に指導できるようにしている。
- ウ ダンスリーダーをつかって生徒主体で練習しており、教員の負担を減らしている。
- エ 生徒同士で教え合える時間を確保している。
- オ 授業で学校支援ボランティアを活用し木更津甚句を指導している。
- カ 外部指導者を招き、歴史や伝統を学び踊っている。
- キ ICT機器を活用し分かりやすく改善点を見つけられるようにしている。
- ク 水泳と授業と連携させて行っている。

③ ダンスの種類について

- ア 学校独自のソーラン節を踊っている。
- イ ソーラン節を地区全体で行う歴史がある。
- ウ 沖縄のエイサーを伝統的に踊っている。
- エ マスゲームや創作ダンスを行っている。
- オ 授業は創作、体育的行事はリズムダンスを行っている。

3 アンケートのまとめ

今年度のアンケート調査から体育的行事の実施時期については、長生、夷隅、市原地区については、5月開催が多く、安房、君津、木更津・袖ヶ浦地区は9月開催が多い。また、体育的行事でのダンス実施校数は夷隅、安房、木更津・袖ヶ浦地区が高く、その他の地区でもほぼ半数近くの学校が実施している。このことから多くの学校が上半期において、体育的行事でのダンス指導を実施していると考えられる。また、アンケートの結果からも各学校で行われている体育的行事は生徒が主体的に活動し、特にダンス発表はダンスリーダーが生徒の意見やアイデアを取り入れた構成を行い、生徒一人一人が積極的に活動していることが分かる。

4 研究仮説

各学校の体育的行事で行われているダンスの指導法や工夫点を参考に授業を進めれば『自ら進んで運動に親しむ児童生徒を育成する体育学習』ができるのであろう。

## 5 研究内容



### ・授業①

生徒がダンスリーダーを務め、各自の意見やアイデアを取り入れた構成を行うことで、生徒一人一人を主体的に活動させることができた。



### ・授業②

外部指導者を招き、専門性を活かした指導を行う。また、生徒がタブレット等の ICT 機器を活用することで、自分の練習するポイントや修正点を分かりやすく理解できた。



### ・体育的行事等でのダンスの実践について

体育的行事や文化的行事（文化祭等）、ダンス発表会においてダンスを発表する機会を設けることで生徒のダンスへの意欲が増した。また、その経験を生徒自身が活かすため、教師がダンスの授業を行う際に、スムーズに導入を行うことができた。

## 6 結果と考察

今年度の調査・研究では、長生、夷隅、安房、君津、木更津・袖ヶ浦、市原地区の多くの先生方から貴重なアンケート結果を得た。その中で多くの学校が体育的行事でダンスが行っており、ダンスの指導を行う際に実践している工夫点や指導法が多くあることが分かった。その工夫点や指導法を通常の授業に活かして授業を行ったところ非常に大きな成果が出た。これは、研究内容にも示した通り生徒が「主体的に学び、自ら進んで学習を深める活動」を意図的に取り入れているからだと考えられる。このように、各学校で行われている様々な指導法を共有することが、ダンス領域の指導において有効だと考える。

## 7 課題

- (1) 今回の調査・研究では、調査地区が長生、夷隅、安房、君津、木更津・袖ヶ浦、市原のみであり、県内全体の調査ではなく、他の地区の実態までは把握できなかった。
- (2) 保健体育科におけるダンス領域と特別活動である健康安全・体育的行事を関係付けて考察することが正しかったどうかを検討する必要がある。
- (3) 体育的行事の中で、ダンスを実施している学校と未実施の学校との比較ができると良かった。

## 8 おわりに

今年度の調査にご協力いただいた各学校の先生方のおかげでたくさんのダンス領域と体育的行事との関係性についての実態を紹介することができました。ありがとうございました。